

## 黙示録 13 章 17 節-18 節 スタディーガイド

### ★ 黙示録 13 章 17 節

また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもしないようにした。

「あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもしないようにした。」

すでにあるコンピューターチップに、獣である反キリストを神と信じる者が自由意志によってチップを入れるのだと考えられます。

それがない者は、買うことも売ることもしないという法律が出来上がります。これは、すべての人々に関わってきます。

食物が買えないだけでなく、銀行口座が使えなくなり、光熱費も税金も払えなくなるゆえ、家も車も取られてしまうといった結果をもたらすことでしょう。

### ★ 黙示録 13 章 18 節

ここに知恵がある。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。その数字は人間をさしているからである。その数字は六百六十六である。

「ここに知恵がある。思慮ある者は」

ダニエル書 12 章 10 節に、「多くの者は、身を清め、白くし、こうして練られる。悪者どもは悪を行い、ひとりも悟る者がいない。しかし、思慮深い人々は悟る」と記されています。

思慮ある者とは、将来どうなるかを考え、自分はどのように行動すべきか、判断力がある人のことです。

現在、黙示録の学びによって、その時が来てもびくともしない信仰を高める者が、知恵があり思慮ある者です。

「その獣の数字を数えなさい。」

多くの神学者が、この数字に関して、ヘブライ語やギリシャ語で名前を書くと、数字に変換できるため、それを指しているのだと考えています。

例えば、ヘブライ語のアレフが1、ベイトが2、ラメッドは30という数字に変換できます。このように、名前の文字を数字に変換するという考えです。

「その数字は人間をさしているからである。その数字は六百六十六である。」

ローマ皇帝を反キリストの7つの頭と考える神学者の中には、復活して人々を驚かす皇帝ネロが反キリストとして現れると考えています。ネロの名が、ヘブライ語で666となるからです。しかし、ギリシャ語で計算すると1005になります。

黙示録は、ギリシャ語で書かれていますから、恐らくヘブライ語とは関係がないと思われます。また、ヒトラーの名前を数字に変換すると666になるそうです。

「その数字は人間をさしている」と書かれているということは、人間の獣的な残酷さを象徴する数字であるとも考えられます。

ダニエル書12章10節で「思慮深い人々は悟る」と書かれています。主を信じて歩む思慮深い者は、反キリストが現れれば悟ることができます。しかし、悪者どもは一人も悟ることができません。

## ■ 現在の世界情勢を見る—イスラム教による感わし ■

元イスラム系テロリストのワリッド・ショエバット (Walid Shoebat) 先生は、反キリストはイスラム系だと語りました。

今は、多くの神学者がイスラム教の終末論を調べ、聖書の終末預言と一致することを知ろうになっています。イスラム教は、終末論の完成版を持っています。

イスラム教を大別すると、シーア派とスンニー派になります。7世紀にイスラエル教を始めたムハンマドが死んだ後、一番弟子が跡を継ぎました。

ムハンマドには、ファーティマという娘がいました。この娘がムハンマドのいとこのアリーと結婚し、3人の息子と1人の娘が生まれています。

このファーティマの夫アリーと息子たちこそがムハンマドの跡継ぎであるとするグループと、ムハンマドの一番弟子が跡継ぎであるとするグループが争い、分裂しました。

前者のムハンマド直系に付いた者たちがシーア派、後者の一番弟子側に付いた者たちがスンニー派です。

コーランは、アッラーの神からムハンマドに直接与えられたと信じられている事が書き留められた書物で、一方のスナは、ムハンマドの言行録です。

これらの両方に、「イエスは預言者であり、神ではなく、死んでいない」と書かれています。イエスは死なないで、神によって天に上げられ、今はアッラーの神の右側に座っているが、終末にアッラーがイエスを再び地に戻すということが記されています。死んでいないので復活はありませんし、贖いもなされていません。

アッラーには息子がいないということが、エルサレムの岩のドームの中に書かれています。つまり、イエスは神の子ではない、と言っているのです。

イスラム教のシーア派もスンニー派も、救い主をマフディーと呼んでいます。そのマフディーの助け人となる、イエスの再臨を待っています。

ここで多くの人々が惑わされ、キリスト教の聖書の神様とイスラム教の神が同じだと考えます。しかし、イスラム教のイエスと、キリスト教の聖書のイエス様は、全く別人です。イスラム教に書かれたイエスの姿は、黙示録 13 章 11 節から 14 節に出てくる第二の獣で、偽の聖霊の役割をする偽預言者の姿です。

さて、イスラム教シーア派は、ムハンマド直系の者をイマームと呼びます。その第 12 イマームであるムハンマド・ムンタザルは、5 歳で父親を亡くしています。その葬儀の時、イマームではない叔父が葬儀を導こうとしたので、5 歳のムハンマドは叔父を叱って退かせました。

その直後、5 歳の第 12 イマーム、ムハンマド・ムンタザルがいなくなったのです。このことをシーア派は、「隠れた」と理解しています。

第三次元のこの世から四次元の世界に隠れて、大人になった第 12 イマームが終末に救世主マフディーとして現れると信じています。一方、スンニー派はイマームには関係なく、大人のマフディーが現れると信じています。

両派共、マフディーの到来は、世界が混乱状態の時に現れるとしています。ゆえに、元イランの大統領アフマディネジャドは「原子力爆弾を作っているのは、世界を混乱状態に導くためである。自分はマフディーの道を整えるために遣わされた者である」と言っていました。

エジプト、シリア、イスラム国（IS）などの混乱は、そのことに一致していると考えられており、混乱を鎮めようとはされていません。

マフディーが到来すると、アッラーの神を信じない者を皆殺しにし、世界をイスラム教化してくれると信じています。

マフディーは黒い旗を持って世界中を行進し、アッラーの神にひざまずかない者を殺していきます。彼は「イスラエルと平和条約を結ぶ」とも預言されています。これは、ユダヤ民族が世界離散していて、イスラエルという国が再建されるということが考えられなかった時代に書かれたものです。

契約の途中でマフディーはイスラエルを襲い、エルサレムの聖なる所に居座るという、聖書の預言と同じ事が記されています。

イスラム教のイエスは、世界中のクリスチャンたちに「あなた方の信じていることは間違っている。マフディーが本物であり、私ではない」と言って、世界中の十字架を破壊していくということが書かれています。

このような教えに惑わされないように、イスラム教のイエスと、キリスト教のイエス様は、全く別人であることを知っておかなければなりません。

現在、イスラエルの民に神殿を建てさせることができる人はいないでしょう。しかし、もしマフディーが現れて、シーア派もスンニー派も、イスラム教のあらゆる枝葉も一致して彼に従う時、鶴の一声となってイスラム教徒たちが従うことでしょう。

そのようなことになれば、サタンがアッラーの神となり、マフディーが子なる神となり、イスラム教のイエスが偽の聖霊となり、偽の三位一体に世界中が惑わされるのです

推察ですが、現在の情勢では、この方法以外での第三神殿建設は不可能だと考えられます。